特集　松浦市総合計画を策定しました
～対話と行動　みんなでつくる松浦市はじめます～

市では、持続可能なまちづくりを目指し、市民が主役の総合計画を策定しました。特集では、策定する過程において多くの市民の声を取り入れる手法や出来上がった総合計画の中身について紹介します。

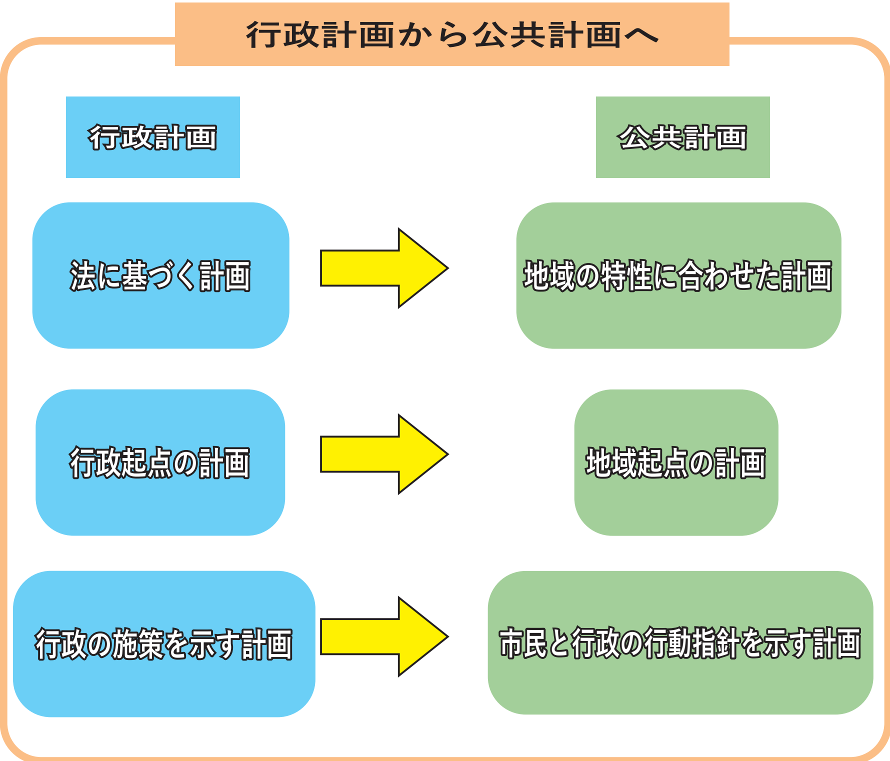
協働によるまちづくりを進めていくための新しい総合計画

市は、２０２０年度から10年間の将来における松浦市のあるべき姿と進むべき方向についての基本的な指針となる総合計画を策定しました。

国内においては、少子高齢化が急速に進んだ結果、２００８年をピークに人口減少が進んでいます。本市においても、２００６年の合併時の人口約２万７千人が、２０４５年には約１万４千人まで減少すると推計されるなど、私たちがこれまでに経験したことがない人口減少社会を迎えようとしています。

急激に進む人口減少社会の中で、松浦市が未来へ続いていくためには、市民、企業、地域、行政が力を合わせてまちづくりに取り組む必要があります。そのため、新しい総合計画は、市民と行政がまちづくりのビジョン（将来のあるべき姿）を共有する地域社会全体の計画（公共計画）と位置づけました。

また、総合計画が掲げる本市の将来像実現に向け、協働によるまちづくりを進めていくために、市民の皆さんが手に取って読みやすい絵本形式とし、市内全世帯に配布することとしました。



▶松浦市総合計画の表紙

新たな手法での計画策定
～まつうら君の自由研究～

新しい総合計画は、これまでにない手法をとり、事前準備を含め約2年をかけて策定しました。

まず、平成30年度には、「松浦未来会議」と題した住民参加型の＊ワークショップを、10月から翌年2月にかけて計4回開催しました。この未来会議には、高校生から高齢者まで延べ320人の市民が参加。対話形式で松浦市の現状や課題などを共有しながら、様々な意見を出し合いました。

このような全市的な話し合いの場を設けることは、本市では初めての試みでしたが、参加者からは「これまで交流がなかった他の地域の方々と、世代を超えて話ができてとても有意義だった」との声が聞かれました。

平成31年度（令和元年度）には、更に多くの声を集めるため、「地域版未来会議」を市内8地域で開催し、地域の問題点や目指したい方向性、具体的な提案などを話し合いました。

さらに、「まちなかインタビュー」と題し、各種団体や企業、小学校に出向き、松浦について思うこと、子育てをしていて感じることなど、まちづくりの参考となる様々なご意見をいただきました。

また、未来会議参加者や各種団体の代表など15人で構成する総合計画審議会では、これまでに出された様々な意見を整理したうえで、本市が目指すべき将来像やその土台となる基本理念についてまとめていきました。

今回策定した総合計画の前半部分は、物語形式となっていますが、主人公のまつうら君が自由研究を完成させていく過程が、総合計画策定までの経過となっています。

◀ワークショップの様子

＊ワークショップ
講師の話を参加者が一方的に聞くような集まりではなく、参加者自身が意見を出したり、体を使って体験したりするなど、体験型のグループ学習のこと。

総合計画策定プロセス

今回の総合計画は、市民と行政が将来のビジョンを共有する「地域社会全体の計画（公共計画）」と言う位置づけの計画とするため、策定の過程で多くの市民の意見を聞く場面を設けて策定しました。

【平成30年度】

① 10月～平成31年2月　松浦未来会議（4回）

② 12月　松浦市立小中学校アンケート
（小学5・6年生、中学1～3年生）

【平成31年度（令和元年度）】

③ 5月　地域版未来会議（全8回）
（鷹島、福島、調川、星鹿、上志佐、今福、御厨、志佐）
※開催した順に記載

④ 5月　まちなかインタビュー（全41回）

⑤ 6月～令和2年2月　総合計画審議会（全6回）

⑥ 7月　市役所未来会議（全3回）

⑦ 7月～12月　ワンデイミーティング（5回）
（総合計画集中検討会議）

⑧ 9月～10月　パブリックコメント